

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私の話を聴いて欲しい。私にして欲しいことを訊いて欲しい。私自身をもっと理解して欲しい。これは出来ない決め付けしないで欲しい。私を‘今’という時を生きさせて欲しい。右の言葉を基本理念として、いのち輝く健やかな暮らしなれと、共に歩んで行きたい。」という認知症の方の思いそのものを事業所の基本理念としている。また地域との繋がりを大切にし、老人福祉に貢献することを通じて、利用者1人ひとりがその人らしく幸福に暮らせることを目指している。	○	今一度、管理者、職員がよく議論し、地域密着型サービスとしての役割を理解した上で見直しを含めた、理念の再構築に取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は各ユニットの玄関に掲示している。また内部研修やケース会議等で、折に触れては職員が理念や方針を理解できているか確認し、サービス対応に実践されるよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族には見学や入居の契約時などに、事業所の理念を説明、理解して頂き、各ユニットの玄関に掲示するなど、いつでも閲覧して頂けるようにしている。また地域の方には運営推進会議等において、事業所の地域密着型サービスとしての運営方針や利用者の方の生活状況を報告し、理解を深めて頂く一助としている。	○	定期的な家族会の開催や地域行事への参加の機会を増やし、交流を深める必要がある。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように	利用者の顔馴染みの方には、いつでもお立ち寄り頂けるよう積極的にお願している。また併設の生活支援ハウスのご利用者との交流の機会をつくり、新しい関係の構築にも努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人運営のデイサービスや老人福祉センターと合同夏祭り、保育園主催の敬老会など、毎年開催し、事業所として参加できている。地域の一員でもある職員が多数在籍しており、地域活動の情報入手しやすい環境である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の生活支援ハウスやデイサービス等の事業所、また地域のコミュニティと連携し、認知症ケアの啓発や情報の発信基地としての役割を推進している。	○	併設の事業所とはこれまで以上に協力の機会を増やし、地域貢献に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	正職員全員に自己評価表を各自記入させ、それを集約した上で管理者、副管理者が自己評価表を完成させている。外部評価の結果については、改善計画書を作成し実践している。	○	自己評価の項目について、職員1人ひとりが意識をもって業務に取り組み、地域密着型サービスとしての事業所の役割を理解する必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域包括支援センター職員や民生委員、家族会代表の方参加のもと、運営推進会議を開催しています。会議では、利用者の生活状況やサービスの実際、地域との交流等について報告し、会議メンバーから頂戴した意見を今後の取り組みに反映させるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方には事業所の運営方針や現況を報告し、情報交換並びに方向性をご指導頂くなど、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	独居で身寄りがないなど必要な方には、地域権利擁護事業の活用を要請している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	府や市からの通達や、各種研修会にて虐待に関する法律や、具体例について学んでいる。事業所内でも虐待を見過ごすことのないようチームケアの強化に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には契約書、重要事項説明書を書類と口頭補足にて具体的に説明している。利用者や御家族の不安や疑問点にも懇切丁寧に説明させて頂き、理解、納得を図った上で同意の署名、捺印を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、利用者から日常生活や介護者のケアに対する意見や不満の聴き取りを随時行っている。また、重要事項説明書に第三者委員や市町村、国保連等それぞれの相談窓口への連絡先を記載し、外部へも意見を表明できるようにしている。	○ 利用者の意見や不満等は担当者会議などで議題とし、各利用者の担当職員が中心となって改善に努めていかなければならない。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	管理者、職員は利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭の出納など、毎月の利用料金のお支払いでの御家族来苑時などに、その都度報告している。緊急を要する場合等は、速やかに電話連絡を行っている。また金銭管理出納表には出納額を記入し、御家族来苑時に領収書と合わせて確認して頂いた上で、署名して頂いている。	○ 管理者や副管理者、計画作成担当者だけでなく、担当職員と御家族との信頼関係の構築に努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、御家族から日常生活や介護者のケアに対する意見や不満の聴き取りを随時行っている。また、重要事項説明書に第三者委員や市町村、国保連等それぞれの相談窓口への連絡先を記載し、外部へも意見を表明できるようにしている。玄関カウンターに意見、苦情箱を設置している。	○ 定期的に家族会を開催し、事業所への意見や不満等を表せる機会を設けるよう取組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のケース会議の後など、随時職員の意見や提案を傾聴するように努め、意見交換を行っている。集めた意見は、法人内の施設合同運営推進会議で議題とし、運営に反映できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員不足であっても、出来る限り利用者の要望に柔軟な対応が出来るようシフト調整を行なっている。欠員が予想される場合には、職員間で協力し合い、勤務変更行なって調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年には、チームケアの改善、サービスの質の向上を目標に、事業所内(ユニット間)での異動を実施したが、利用者への影響は最小限にとどめることが出来た。本年度も職員の離職により異動を行ったが、基本的にはユニット専従での馴染みの関係の構築に努めている。	○	管理者が中心となって人間関係など職場環境による職員の離職を予防し、チームケアの向上に取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部では内部研修の年度計画を作成し、積極的に役職者研修、一般職研修を実施しています。その他にも有識者による講習会や認知症ケア会議等開催している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟のグループホーム分科会への参加などで他事業所と交流の機会を持ち、相互訪問や意見交換を行っている。	○	地域の同業者との積極的な交流が必要である。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、副管理者は毎月のケース会議後のストレスマネジメント等で、随時職員の悩みを傾聴するように努め、ストレスが大きくチームケアへの影響が認められる場合には、施設内異動等の配慮を行なう。	○	職員の精神的な負担を軽減する為には、ハード面の充実も必要だと思われる。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や事業所への貢献度、勤怠状況を考課し、昇給や賞与に反映させている。また資格取得や研修の為にシフト調整には出来る限り協力し、資格手当を給与に付与している。永年勤続表彰を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談があれば、施設内見学や訪問の際に、本人の困っていることや不安なことを傾聴し、初期の信頼関係の構築に努めている。また、本契約の前に体験入所をお勧めしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族からご利用の相談があれば、施設内を見学して頂き、グループホームの雰囲気を感じて頂いている。入所前には、ご本人の生活暦や困っていること、不安なこと等を聴き取り、ケアプランに取り入れることで、初期の信頼関係の構築に努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での相談や、来苑面談の際には、本人と御家族が必要としている支援を見極め、法人内の事業所だけでなく居宅介護支援事業所や社協、医療関係等と連携を図り、適切なサービス支援の利用に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の施設見学や自宅訪問、体験入所にて、グループホームの雰囲気を感じて頂き、入所後も親和的な対応で新しい環境への不安を軽減するように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1人ひとりの個性を尊重したパーソンセンタードケアを基本としている。日常生活では、調理、洗濯、清掃等を一緒に行うことで一体感を築いている。職員が利用者から教えて頂く場面も多々あり、支えあう関係を目指している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも、本人を共に支えていけるように協力を依頼している。可能な限り面会や外出、外泊の機会を持って頂くことをお勧めし、共助の関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族がより良い関係を築いていけるように、御家族には随時本人の生活状況をお伝えし、心身に変化がみられる場合にも詳細説明を行い、家族間の信頼関係の継続を支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等は原則自由とし、地域や馴染みの人との交流環境を整えている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員には1人ひとりの病態を考慮した疾患別ケアの重要性を説いている。その中で利用者同士の関係性に配慮しながら、全ての方が楽しい日常生活を過ごして頂けるよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの契約終了後も、必要な方にはいつでもご相談に応じ、関係施設を紹介するなど支援するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞き取り、常にパーソンセンタードケアの考えに基づいた認知症ケアを念頭に置いている。本人からの聞き取りが困難な場合にも、御家族や関係者より情報を入手し、本人主体のケアプラン作成に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談等で本人や御家族、介護支援専門員等から、これまでの生活歴や趣味、サービス利用経過などの把握に努めている。また、入所に伴い居住環境の変化による混乱を生じさせない為にも、使い慣れた家具等の持ち込みを助言させて頂いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケースカンファレンスや担当者会議等で、一人ひとりの生活状況や残存能力を総合的に把握し、自分らしい暮らしを継続して頂けるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や御家族等から思いや意見を聞き取った上で、ICF(国際生活機能分類)に基づいた「情報シート」、「生活機能向上シート」をアセスメントツールとして課題を設定し、利用者本位の介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しの際や、身体状況その他に変化が生じた場合には、ケース会議等で職員が協議した内容に基づいて、計画を見直している。御家族の来苑時にも計画を説明、相談した上で同意を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録には利用者の日々の様子やケアの実践、気づきや工夫を記入し、夜間の様子等も含め情報を共有している。記録が介護計画見直しの重要なツールとなるよう、適切な記録の書き方を職員に周知・徹底する必要がある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の生活支援ハウスの居住者の方との交流や、隣接の同法人運営の老人福祉センターのふれあい喫茶や、カラオケ同好会等にも利用参加の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方には、運営推進会議に参加して頂いている。また地域の小学校や中学校とも定期的に交流があり、学生の職場体験、敬老会などを開催している。 年2回消防署の指導のもと、利用者の方にも参加して頂いて、防災訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活が困難な場合は、本人や御家族の意向や必要性に応じて、法人内の事業所や地域のサービス事業者と連携し、本人にとって最良のサービス利用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターの安心サポート制度を利用しておられる方が4名おられ、権利擁護事業の提供がなされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、本人や御家族の要望に応じて継続して頂き、受診の際は本人の健康状態を御家族にお伝えし、付き添いをお願いしている。緊急時や御家族が多忙の折は、職員が受診介護している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医のいない方には、月1回認知症専門医の往診をお願いし、ケアや処方薬に関する医学的指導を頂いている。また、年2回の定期健康診断にて健康管理を支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、看護職は採用しておらず、服薬管理等に関しては、主治医との連携のもと、担当職員が行なっている。	○	隣接の同法人運営のデイサービスに看護職が在籍しており、今後利用者の健康管理の為、協働できる体制を考慮していく必要がある。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、少しでも不安が軽減するよう、管理者や職員が出来る限り訪問し、洗濯物などの差し入れなどを行ないます。また病院関係者との情報交換・相談を積極的に行い、早期退院に向けた協働に努めます。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した方には、本人や御家族の意向を伺った上で、主治医や職員とも話し合い、方針を共有している。現状ターミナル・ケアは行なわない方針で、急変された時は医療に繋げることとしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状、事業所としてはターミナル・ケアは行なわない方針であるが、重度化で医療が必要ではあるが、治療しない方針の利用者の方には、かかりつけ医との連携のもと療養型病床群等の説明を行いながら、出来る限りの支援継続に努めている。	○	重度化や終末期の支援に対する、事業所として現在「できること・できないこと」を見極め、スタッフのスキルアップや医療との連携体制の充実を図りながら、今後の変化に備えなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、本人がその人らしい暮らしを継続できるよう、御家族や転居先の関係者としてしっかりと情報交換を行い、環境の変化による不安を軽減するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方は人生の先輩であるということを常に念頭に置き、尊厳やプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないよう、管理者は職員に指導している。個人記録等は決められた場所に保管し、職員とは入職時に個人情報守秘の誓約をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、常に傾聴・受容・共感を基本として、利用者との会話に臨まなければならない。個々に合わせた対応、説明にて自己決定を大切にし、思いや希望の表出が困難な方に対しては、日常生活の中での何気ないサインを見逃さないように注意を払っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は制約せず、共同生活の中でも利用者1人ひとりのペースに合わせることを基本としている。	○	個別ケアの充実の為には、人員不足の解消が課題ではあるが、限られた人材の中でも利用者のその人らしい暮らしを守れるよう、スタッフのスキルアップや仕事に対する高い意識が求められている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	併設の生活支援ハウスの職員が美容師の有資格者であり、ほとんどの利用者の方が、その職員が行う散髪ボランティアを利用されている。御家族付き添いで、馴染みの理容店に通う方も若干名おられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		現在喫煙者はおられないが、煙草に関しては防火管理の観点から、職員預かり管理としている。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理に問題のない方には、本人に所持、支出管理して頂き、自分のお金を自由に使える安心感を得て頂いている。自己管理の困難な方には、事務所にて管理預かりさせて頂き、必要時に使えるように支援している。		お金を使用された時は、管理者が金銭管理出納帳に記入し、毎月の利用料金の精算時に御家族に領収書を添付した上で、支出の説明をし署名もしくは捺印を頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出を好む利用者は勿論のこと、出不精の方にも声掛けを行なって散歩や外出などの支援を行なっている。	○	利用者1人ひとりの希望に沿った外出機会を設けられるよう、個別ケアの充実を追究していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画書を作成し、花見など季節を感じることができる場所、自動車に乗っての遠足など、普段いけない場所や、利用者が行きたい場所への外出支援を行なっている。御家族との外出や外泊は、自由に楽しんで頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や御家族から希望があれば、随時電話を掛ける支援を行なっている。また、年末には御家族や知人の方への年賀状を制作して頂き、必要な方には代筆の支援を行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、馴染みの人たちの訪問は積極的に受け入れ、礼儀正しい挨拶はもちろん、湯茶でおもてなしし、本人の生活状況等をお伝えするようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に努めているが、病態によりベッドからの転落が予想され、4本柵が必要な場合など、利用者の身体が危険にさらされる危険が著しく高ければ、御家族に説明、同意を頂くケースも考えられる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	鍵をかけることの弊害について、職員共通の理解を深める必要がある。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	事故報告書だけでなくヒヤリハットに関する知識、理解の周知・徹底。また、リスクマネジメントの担当配置や委員会の立ち上げなどに取り組む必要がある。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		年2回、利用者、職員が参加した防火避難訓練を行なっている。避難時には小学校や中学校、公園などの地域資源を円滑に使用できるよう、運営推進会議等で議案とし協働を図りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	服薬に頼りがちな部分もある為、便秘に対する理解をより深め、効果的な食事や運動を日常的に取り入れていきたい。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出後の手洗い、うがい、食事前の手洗い励行に取り組んでいる。インフルエンザやノロウイルスなどに対しては、健康福祉局等からの通達に従い、対応策を実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎朝業者から配達されたものを使用し、調理後2時間以内を目安に摂取して頂いている。まな板や台所用ふきはハイター消毒、包丁は殺菌庫に収納するなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日玄関の清掃を行い、玄関前には鉢植えを置くなど、親しみやすい環境づくりに取り組んでいる。また、玄関先には家庭菜園があり、利用者の方の憩いの場としている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が集まる食堂・居間では、童謡や民謡、流行歌など、馴染みのある音楽を大きすぎない音量で流したり、造花等で季節感を感じて頂くなど、心地よい空間となるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	光の入る中庭のテラスにテーブルと椅子を置き、自由に利用して頂いている。また、共用廊下の空間にソファや椅子を配置し、くつろぎや談笑のスペースとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるよう、御家族には本人の 馴染みのある家具や、自宅で使用していた物の持 参を働きかけ、家具の配置なども、本人や御家族 と相談して決定している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	共用部分はオゾン発生装置が備わっており、除 菌・消臭効果を発揮している。また、換気扇によ る24時間換気に加え、清掃時や必要に応じて、窓 からの自然換気も随時行なっている。	○	共用部の空調を職員の体感温度に合わせがちに なっており、常に利用者の体感温度や活動量に配 慮した空調管理を申し合わせる必要がある。室温 計を利用し、外気温と大きな差がないよう空調管 理を意識しなければならない。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内はバリアフリー設計となっている。テー ブルなどは角がないものを使用し、先端が危険な箇 所にはクッションを貼っている。居室内にも必要 に応じて、本人や御家族了承のもと、手摺りの増 設など行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室入り口には写真を掲示して、わかりやすくし たり、表札を利用者の目線に合わせてつけるな ど、混乱を防ぐ工夫をしている。また、必要な方 にはトイレの場所に大きく張り紙をするなど、迷 いを軽減するよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関先に家庭菜園をつくり、利用者の方に水遣り や収穫を楽しんで頂いている。また、テラスの一 部が洗濯物を干すスペースとなっており、毎日の ように利用者の方が洗濯物を干してくださるな ど、活動の場となっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

これまで以上に、隣接する同法人運営の事業所との連携に取り組むなど、常に地域との繋がりを大切にし、利用者主体の介護の実践を目指している。本年11月からは「くもん学習療法」を導入し、利用者の方の認知機能、コミュニケーション機能、身辺自立機能の維持・改善に取り組んでいきたいと考えている。